

■令和4年9月定例記者会見

日時：令和4年8月25日(金)午後3時30分～4時

場所：吹田市役所高層棟4階特別会議室

質疑応答要旨

記者

先月の安倍元総理大臣の家族葬の際に合わせて吹田市で半旗の掲揚を促す通知をされたことの経緯と理由、教育委員会を通じて各学校、教育現場に対しても、半旗の掲揚の依頼を通知されたということについて、教育現場は政治的中立性が求められるという意見もございますけれども、ご判断に問題がなかったのかという点を伺いたいのと、もう一点、来月の国葬の際にも半旗の掲揚に関して通知をされる予定かということ伺いたいです。

後藤市長

まず、この案件は政治的問題とは一切考えていません。首相は行政のトップで、国家のトップがこういうことになったというのは、民主主義に対するある意味挑戦だと思っています。その上で、その対象となった方が、民主制度下における、おそらく最長の在職、在任期間3000日を超える総理、首相でした。賛否両論あるのは、よく分かっていますが、組織として、そのトップである方を悼むというのは、これは特に問題ない、当たり前のことだと思っています。弔意の表し方は様々ですが、今の日本社会でノーマルな弔意の表し方である半旗を掲げるという形にしました。

今回の事件が広く報道されたことが、より痛ましさ国民の心に響いたこともひとつの要因にあります。

国葬については詳細もわからない中での対応はまだ判断していません。状況を見ながら今後検討していきます。

記者

市の判断を受けて教育委員会が学校に通知したことについての回答もお願いします。

後藤市長

教育委員会は市とは別です。吹田市としての対応を教育委員会に伝えました。もしよければ同調してくださいという緩やかなお願いですね。決して強制することでは全くないです。教育委員会の判断を尊重しています。

記者

分かりました。

あくまで安倍元総理自体は、現状では一派閥の方というより元総理大臣というところを評

働かれて、行政のトップとして弔意を表したと。

後藤市長  
そうです。

記者  
わかりました。  
もう一点、旧統一教会との自治体との関係性があったかということが取り上げられている状況ですが、吹田市としての、例えばパートナーシップを結んでいるだとか、ピースロードのイベントに何かされたとか、そういったことがないかということと、ご自身の政治活動でこれまで関わられたことがないのかということをお聞きしたいです。

後藤市長  
両方とも調査もしましたけれど、現在のところ、関与していることはないです。

記者  
市と市教育委員会、学校とは違うというのはわかりました。半旗を掲げるような方向で指示した対象はあるのですか。公共施設にはしているのですか。

吹田市担当者  
総務部長の名前で各施設にしています。

記者  
結果的に何カ所でそうした半旗掲揚をしたのですかね。

吹田市担当者  
お願いをして、各施設で判断していただいていますので、実際に何施設が半旗掲揚したというのは、こちらの方では確認はしておりません。

記者  
国府から降りてきたものではなくて、市長の判断ですか。

後藤市長  
行政機関としての市長が判断しています。

春藤副市長  
議会制民主主義の中で、最も長期間に渡って総理大臣を務めた方がああいう形で非業の死

を遂げられたことに対して、弔意を表すべきなんじゃないかという結論に至ったということとで我々は素直に判断しました。

記者

判断した経緯は他の自治体もやっているからとかそういう経緯なのですかね。

春藤副市長

総務部長と協議をして、問題ないという判断に至ったということです。

記者

分かりました。

毎日新聞

ラッピングポストは設置したらそのまま、期間があるわけじゃなくてこういうポストにしたいわけですよね。

吹田市担当者

期間限定ということではございません。

毎日新聞

これは規則はいらないのですよね。ポストは赤いものかと。たまに青いのも見た気がしたけど。

吹田市担当者

日本郵便株式会社のほうに、寄付ということで申し出をさせて頂き許可を頂いた上で行います。

毎日新聞

ポストを寄付したと。

吹田市担当者

ポストへのラッピングを寄付しているというような形になっております。新たに作ったものを設置するのではなくて、設置してあるポストをラッピングします。

毎日新聞

同じ場所にすでに赤いものがあるって、それをラッピングして、方法はラッピングだけど寄付したということになると。

吹田市担当者

形式的には寄付という形になります。

毎日新聞

分かりました。